

特集レポート

2025年8月28日に、あいち人権センター企画展講演会「ハンセン病を正しく理解するために」を愛知県産業労働センター（ウイングあいち）（名古屋市中村区）にて開催しました。

愛知県・愛知県藤楓協会制作のDVD「今、伝えたいこと～愛知県出身ハンセン病療養所入所者の証言記録～」を上映するとともに、小川秀幸氏（三重テレビ放送編成局長）をお招きし、講演を行っていただきました。

講演では、「かけはし～ハンセン病回復者との出会いから～」と題し、三重を中心に東海地方出身の元患者を長年取材してこられた経験から、彼ら彼女らの体験、思いや願いとともに、今を生きる私たちが何をすべきかをお伝えいただきました。

また、当事者であるハンセン病患者だけでなく、そのご家族や当時ハンセン病担当官として患者に病名を告げて療養所への収容を担当する一方、「里帰り事業」などを実施した行政職員といった、様々な立場の方にハンセン病について取材された体験談についてもお話しいただきました。

特に、ハンセン病患者のご家族を取材された際の、患者だけでなく周囲の人も差別やいじめに遭った体験談を聞き、

当時のハンセン病への無知による偏見や差別意識について改めて認識するとともに、元患者の言葉に「人間回復という言葉は回復者（元患者）のためだけの言葉か?」というものがあり、それは元患者に向けたものではなく、差別を放置してきた社会や人々ではないか、というお話がとても印象に残りました。

差別は、人生そのものに影響を与えることや、今の私たちができることは、関心を持ち続け、交流を行うことだと学んだイベントになりました。



▲講師の小川秀幸氏



▲講演会の様子

ホームレスの方への理解を深めましょう ～ どうしてホームレスになってしまうのか ～

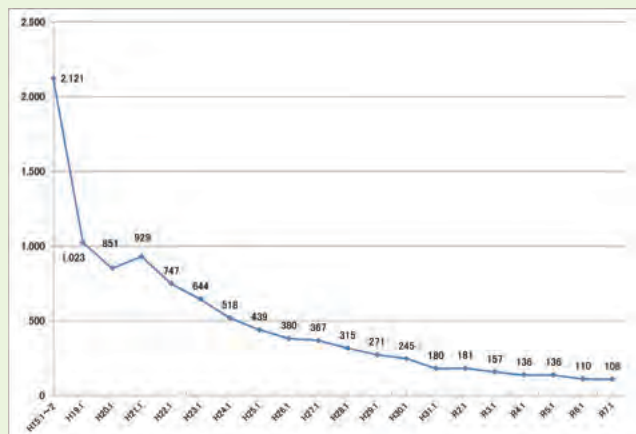
愛知県内のホームレスの方の数は、2025年1月の調査で108人が確認されました。これは初めて全国調査が行われた2003年1月の調査の2,121人から2,013人の減少となっています。現在確認されているホームレスの方の多くは名古屋市など大都市圏に偏っている一方、いくつかの市町村でも、少数ですがホームレスの方が確認されています。

どうしてホームレスになってしまうのでしょうか？その生い立ちには、幼いときに家族を失ったり、病気やけが等により仕事を失ってしまったなどの背景がある場合もあります。そして、困難な状況になったとき、誰にも相談できないまま、社会から孤立してしまい、結果として住む場所までも失ってしまった場合があります。

一度住む場所を失ってしまうと、再び元の生活を取り戻すのには多くの問題を解決しなくてはなりません。

多くのホームレスの方は、各種の支援施策や生活保護などを活用し、住まいを確保し、ホームレスから抜け出すことができました。しかし、それだけでは、社会から孤立している状況に変わりありません。地域や社会の中で生活するためには、社会や人とのつながりを作っていくことが必要となります。

ホームレスという問題への理解を深めて、ホームレスの方を生まない社会にしていけるためには、私たち一人一人が考えていくことが大切ではないでしょうか。地域で生活する私たちもお互いに支え合い、助け合える関係にあることがとても大切です。そのうえで、自分の中にある偏見と向き合い、誰もが暮らしやすい社会を目指して、私たちに何ができるかを考えていきましょう。



■愛知県内のホームレスの方の数の推移

